

平成 30 年度 第 8 回広島市感染症対策協議会

平成 30 年 12 月 17 日

【日 時】 平成 30 年 12 月 17 日（月）19:00～19:45
【場 所】 広島市役所 14 階第 7 会議室
【出席者】 小林 正夫、石川 暢久、吉岡 宏治、高橋 宏明、佐藤 貴、新甲 さなえ、
堂面 政俊、増田 裕久、藤本 三喜夫、松原 啓太、南 心司

1 感染症に関する最近の情報《公開》

（1）インフルエンザの流行入りについて（資料 1 P1～28）

第 48 週の広島市感染症発生動向調査において、定点当たりのインフルエンザ患者報告数が、1.11 人となったことから、平成 30 年 12 月 5 日、市内でインフルエンザの流行期に入った旨の広報を行った。なお、第 49 週現在、広島市の定点当たり報告数は 1.27 人と全国の定点当たり報告数 1.70 人と同程度となっている。

また、インフルエンザ様疾患による学級（学年）閉鎖は、12 月 13 日までに 6 件が報告されているほか、基幹定点 2 か所におけるインフルエンザ迅速診断キット検査では、第 49 週は A 型 17 件、B 型 3 件が検出されており、今後、さらに流行が拡大していくことが予想されることから、感染予防対策を徹底する必要がある。

なお、国が今年度も「今冬のインフルエンザ総合対策について」及び「平成 30 年度インフルエンザ Q&A」をとりまとめたことから、本市においても関係機関に周知し、対策を呼び掛けている。

（委員意見）

今後の流行拡大に備え、広くインフルエンザの感染予防を呼びかけていただきたい。

（2）風しん対策について（資料 1 P29～54）

2018 年第 48 週（12 月 5 日）現在、全国の風しん患者累積報告数は 2,454 件となっている。本市においても、平成 30 年 8 月 27 日以降、12 件の風しん患者発生届出があった。患者は 8 名が男性（50 代 2 名、40 代 4 名、30 代及び 20 代が各 1 名）、4 名が女性（50 代 1 名、30 代 3 名）であり、全て国内感染と推定されるが、現在のところ、感染の拡大は確認されていない。

また、大阪府と福岡県の風しん患者増加に伴い、重点的対策を行う範囲が「5 都県」から「7 都府県」へと拡大された。

このような状況のもと、平成 30 年 12 月 13 日に開催された国の審議会において、抗体保有率の低い世代（1962 年（昭和 37 年）4 月 2 日から 1979 年（昭和 54 年）4 月 1 日までの間に生まれた男性）については、予防接種法に基づく風しんの定期接種を行うことが決定された。実施方法としては、2019 年（平成 31 年）から 2022 年 3 月末までの間、ワクチンの効率的な活用等のため、抗体検査を前置し、陰性の者に対して接種を実施することとされた。

今後、国の動向に注視し、本市においても速やかに効果的な対策が行えるよう準備を進めたい。

（委員意見）

国の動向を踏まえ、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催までに上記世代の抗体保有率 85%とすることを目指し、感染拡大を終息させる取組を推進していただきたい。

（3）平成 30 年度世界エイズデーにおける「レッドリボンキャンペーン in 広島 2018」の開催結果について（資料 1 P55～58）

世界エイズデーに合わせて、市民に対し検査を受けやすい環境を提供するとともに、感染の拡大が懸念されている若年層を中心にエイズに関する正しい知識の普及啓発を図ることを目的として、平成 30 年 12 月 8 日（土）に「レッドリボンキャンペーン in 広島」を開催した。

広島市西新天地公共広場（通称：アリスガーデン）でイベントステージ、ブースを設けたエイズ予防普及啓発を行ったほか、HIV 臨時検査をあおぞら健診・内科クリニックにて実施し、46 名が受検した。今年度は、近年の梅毒患者の急増を受け、希望者に対し、梅毒検査も実施した。

受付時に行った受検者アンケートによると、受検者の半数が 20 歳代以下の若年層、約 3 割が女性、約 1 割が MSM であり、今年度もイベントの目的を果たすことができたと考

えている。

(委員意見)

若年層及びMSMに効果的な啓発ができたということで、今後も継続して当キャンペーンが実施できるよう、取り組んでいただきたい。

2 11月の定点把握対象感染症発生状況《公開》(資料2、3)

※感染症法に定められた感染症のうち、指定された医療機関のみが報告を行う感染症

3 全数把握対象感染症の発生状況《公開》

区分	病名	11月分	12月分
		報告 11/5～12/2	報告日 12/3～12/13 現在
2類	結核	18人 (結核16人、潜在性結核2人)	
3類	腸管出血性大腸菌感染症	2人 (11/5、11/26)	
4類	つつが虫病	7人 (11/7、11/12、11/20、11/20、11/22、11/28、11/30)	2人 (12/6、12/13)
	レジオネラ	1人 (11/5)	
	E型肝炎		1人 (12/10)
5類	アメーバ赤痢	2人 (11/6、11/7)	
	ウイルス性肝炎	2人 (11/12、11/15)	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5人 (11/6、11/9、11/16、11/16、11/20)	
	急性弛緩性麻痺		1人 (12/6)
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1人 (12/12)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		1人 (12/13)
	侵襲性肺炎球菌感染症	3人 (11/22、11/28、11/28)	
	梅毒	5人 (11/12、11/12、11/16、11/19、11/19)	2人 (12/7、12/12)
	破傷風	1人 (11/26)	
	百日咳	5人 (11/5、11/19、11/21、11/28、11/28)	
	風しん		2人 (12/7、12/10)

() は届出日

4 その他《公開》

次回開催予定日 平成31年1月21日(月) 14階第7会議室

【資料】

資料1：最近の感染症情報

資料2：11月の感染症の概要

資料3：定点把握五類感染症(月報対象)の長期的変動

広島市感染症対策協議会コメント（12月分）

平成30年12月17日

1 患者情報

(1) 概要

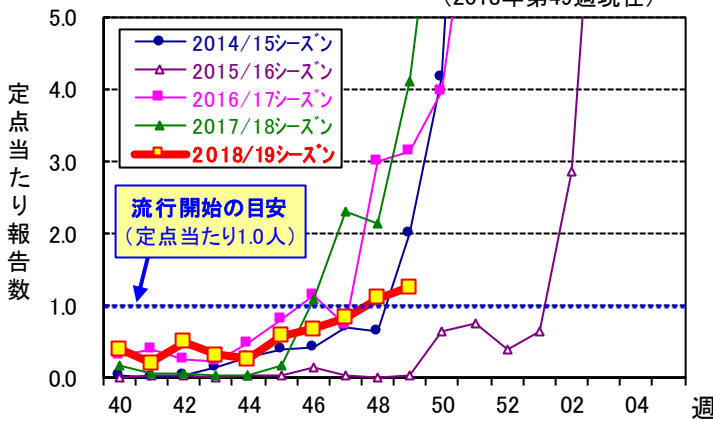
定点からの内科・小児科・眼科系疾患の患者報告数は、11月は1,457人で、前月比1.31とやや増加した。

インフルエンザは大きく増加、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘は増加、流行性角結膜炎はやや増加、咽頭結膜熱、突発性発しんはほぼ横ばい、RSウイルス感染症はやや減少、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎は減少、手足口病は大きく減少した。

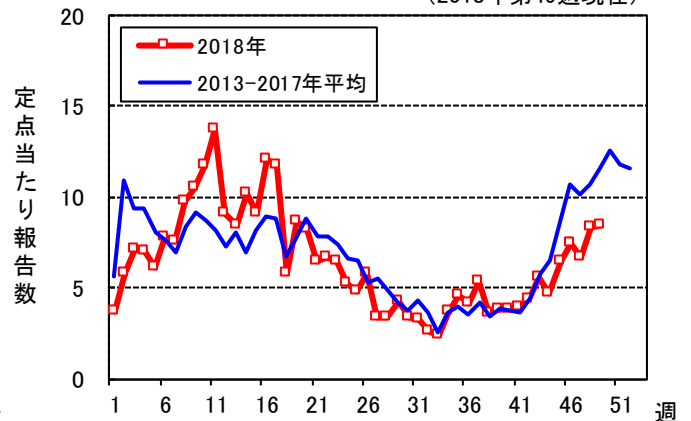
(2) 特記事項

- インフルエンザは、第48週(11月26日～12月2日)に定点当たり1.11人と流行開始の目安である定点当たり1.0人を上回り、流行期に入った。第49週(12月3日～12月9日)には定点当たり1.27人となっている。インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等は12月9日までに6件報告されており、今後、流行の拡大が予測される。健康管理に十分注意し、ワクチン接種、手洗いの励行、咳エチケットなどインフルエンザ対策を徹底することが重要である。なお、広島市衛生研究所の検査結果では、今シーズンはインフルエンザウイルスA(H1N1)2009型が10件、インフルエンザウイルスA(H3)型が1件検出されている(12月9日現在)。
- 感染性胃腸炎は、第45週以降増加傾向がみられ、第49週には定点当たり8.42人の報告があった。例年、冬季はノロウイルスなどを原因とする感染性胃腸炎が急増し、12月に流行のピークとなる傾向があるため、手洗いの徹底、便・吐物の適切な処理などの感染予防対策に努めることが重要である。
- 11月以降、つつが虫病の報告が続いている。つつが虫病はツツガムシ(ダニの一種)が媒介するつつが虫病リケッチアによって起こる感染症で、広島市では11～12月に報告数が多くなっている。山や草むらに入るとき、農作業を行うときは、肌の露出を少なくしてダニ類の付着を防ぎ、屋外活動後は入浴してダニ類が付着していないか確認するなどの対策をとることが重要である。

広島市におけるインフルエンザの定点当たり報告数
(2018年第49週現在)



広島市における感染性胃腸炎の定点当たり報告数
(2018年第49週現在)



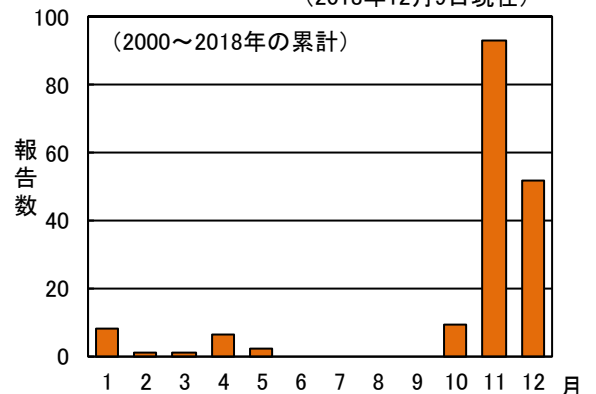
(3) 11月の1類～5類感染症（全数報告）患者発生数

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 18件（患者：16件、潜在性結核：2件）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 2件
- 4類感染症：つつが虫病 7件 レジオネラ症 1件
- 5類感染症：アメーバ赤痢 2件 ウイルス性肝炎 2件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 5件
侵襲性肺炎球菌感染症 3件 梅毒 5件
破傷風 1件 百日咳 5件

(4) 今後の流行予測

- インフルエンザ・・・【流行中】
- 感染性胃腸炎・・・【流行中】

広島市におけるつつが虫病の月別報告数
(2018年12月9日現在)



2 検査情報

11月の検査結果判明分

臨床診断名	検出病原体	検体採取月	患者数
インフルエンザ	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	10 月	1 人
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌 T14/49 型	10 月	1 人
ヘルパンギーナ	コクサッキーウイルス A6 型	8 月	1 人
流行性角結膜炎	アデノウイルス 54 型	9 月	3 人
その他の呼吸器疾患（咽頭炎）	エンテロウイルス 68 型	10 月	1 人
その他の呼吸器疾患（気管支炎）	エンテロウイルス 68 型	10 月	2 人
	ライノウイルス	10 月	3 人
	インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型	10 月	1 人
その他の呼吸器疾患（肺炎）	ライノウイルス	10 月	1 人
	その他の呼吸器疾患（喘息）		
その他の呼吸器疾患（喘息）	*1 エンテロウイルス 68 型	9 月	1 人
	*1 ライノウイルス		
	*2 エンテロウイルス 68 型	9 月	1 人
	*2 ライノウイルス		
	エンテロウイルス 68 型	9 月	1 人
	ライノウイルス	9 月	1 人
	エンテロウイルス 68 型	10 月	2 人
	ライノウイルス	10 月	1 人
	その他の消化器疾患（腸重積症）		
	アデノウイルス 4 型	8 月	1 人
その他の疾患	アデノウイルス 31 型	9 月	1 人
	エコーウイルス 11 型	7 月	1 人
	*3 アデノウイルス 2 型	7 月	1 人
	*3 エコーウイルス 11 型		
その他の疾患（痙攣重積）	エコーウイルス 11 型	9 月	1 人
その他の疾患（不明熱）	*4 エコーウイルス 11 型	10 月	1 人
	*4 ライノウイルス		

*1～*4：複数病原体検出例

27 人の患者から 9 種類のウイルス 30 株及び 1 種類の細菌 1 株が検出された。検出ウイルスの内訳は、ライノウイルス 9 株、エンテロウイルス 68 型 8 株、エコーウイルス 11 型 4 株、アデノウイルス 54 型 3 株、インフルエンザウイルス A(H1N1)2009 型 2 株、アデノウイルス 2 型、同 4 型、同 31 型及びコクサッキーウイルス A6 型各 1 株であった。検出細菌の内訳は、A 群溶血性レンサ球菌 T14/49 型 1 株であった。

5類感染症定点情報
(平成30年11月解析分)

1. 週報対象(第45週～第48週)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測	No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり	今後の予測
1	インフルエンザ		119	3.22		10	流行性耳下腺炎		11	0.47	
2	咽頭結膜熱		39	1.63		11	RSウイルス感染症		29	1.21	
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		323	13.46		12	急性出血性結膜炎		-	-	
4	感染性胃腸炎		695	28.96		13	流行性角結膜炎		27	3.39	
5	水痘		49	2.04		14	細菌性髄膜炎		-	-	
6	手足口病		73	3.05		15	無菌性髄膜炎		-	-	
7	伝染性紅斑		10	0.41		16	マイコプラズマ肺炎		3	0.43	
8	突発性発しん		41	1.71		17	クラミジア肺炎		-	-	
9	ヘルパンギーナ		15	0.63		18	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		1	0.14	

2. 月報対象(11月)

No.	疾患名	発生記号	報告数	定点当たり
1	性器クラミジア感染症		34	3.78
2	性器ヘルペスウイルス感染症		17	1.89
3	尖圭コンジローマ		13	1.44
4	淋菌感染症		10	1.11
5	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		19	2.71
6	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		3	0.43
7	薬剤耐性緑膿菌感染症		-	-

発生記号

前月と比較しておおむね1:2以上の増減		
前月と比較しておおむね1:1.5～2の増減		
前月と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減		
ほぼ横ばい(発生件数少数のものを含む)		

予測記号

流行始まり	
流行中	
流行終息傾向	
終息	

全数把握感染症報告数(平成30年11月分)

第45週～第48週(11月5日～12月2日)報告分

類型	疾患名	広島市		全 国	
		報告数	累積	報告数	累積
一類	1 エボラ出血熱	-	-	-	-
	2 クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-
	3 痘そう	-	-	-	-
	4 南米出血熱	-	-	-	-
	5 ペスト	-	-	-	-
	6 マールブルグ病	-	-	-	-
	7 ラッサ熱	-	-	-	-
二類	8 急性灰白髄炎	-	-	-	-
	9 結核	18	128	1,810	20,027
	10 ジフテリア	-	-	-	-
	11 重症急性呼吸器症候群	-	-	-	-
	12 中東呼吸器症候群	-	-	-	-
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	-
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-	-
三類	15 コレラ	-	-	1	4
	16 細菌性赤痢	-	-	21	232
	17 腸管出血性大腸菌感染症	2	9	140	3,743
	18 腸チフス	-	1	1	34
	19 パラチフス	-	-	3	22
四類	20 E型肝炎	-	4	32	414
	21 ウエストナイル熱	-	-	-	-
	22 A型肝炎	-	1	38	888
	23 エキノコックス症	-	-	2	12
	24 黄熱	-	-	-	-
	25 オウム病	-	-	-	6
	26 オムスク出血熱	-	-	-	-
	27 回帰熱	-	-	1	6
	28 キヤサヌル森林病	-	-	-	-
	29 Q熱	-	-	-	3
	30 狂犬病	-	-	-	-
	31 コクシジオイデス症	-	-	-	2
	32 サル痘	-	-	-	-
	33 ジカウイルス感染症	-	-	-	-
	34 重症熱性血小板減少症候群	-	-	1	75
	35 腎症候性出血熱	-	-	-	-
	36 西部ウマ脳炎	-	-	-	-
	37 ダニ媒介脳炎	-	-	-	1
	38 炭疽	-	-	-	-
	39 チクングニア熱	-	-	-	3
	40 つつが虫病	7	8	177	305
	41 デング熱	-	2	20	185
	42 東部ウマ脳炎	-	-	-	-
	43 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)	-	-	-	-
	44 ニバウイルス感染症	-	-	-	-
	45 日本紅斑熱	-	5	15	294
	46 日本脳炎	-	-	-	-
	47 ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-
	48 Bウイルス病	-	-	-	-
	49 鼻疽	-	-	-	-
	50 ブルセラ症	-	-	-	3
	51 ペネズエラウマ脳炎	-	-	-	-
	52 ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	-
	53 発しんチフス	-	-	-	-
	54 ボツリヌス症	-	-	-	2
	55 マラリア	-	-	2	47
	56 野兔病	-	-	-	-
	57 ライム病	-	-	-	13
	58 リッサウイルス感染症	-	-	-	-
	59 リフトバレー熱	-	-	-	-
	60 類鼻疽	-	-	-	2
	61 レジオネラ症	1	35	130	2,009
	62 レプトスピラ症	-	1	-	30
	63 ロッキー山紅斑熱	-	-	-	-
五類	64 アメーバ赤痢	2	11	51	764
	65 ウイルス性肝炎	2	5	28	236
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5	15	210	2,047
	67 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	1	22	120
	68 急性脳炎	-	5	44	594
	69 クリプトスポリジウム症	-	-	1	24
	70 クロイツフェルト・ヤコブ病	-	3	14	194
	71 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	5	46	627
	72 後天性免疫不全症候群	-	8	101	1,177
	73 ジアルジア症	-	-	3	66
	74 侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	29	435
	75 侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	3	32
	76 侵襲性肺炎球菌感染症	3	13	287	2,957
	77 水痘(入院例に限る。)	-	2	49	411
	78 先天性風しん症候群	-	-	-	-
	79 梅毒	5	102	565	6,376
	80 播種性クリプトコックス症	-	1	15	167
	81 破傷風	1	2	10	120
	82 バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	-
	83 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	1	5	72
	84 百日咳	5	60	1,584	10,360
	85 風しん	-	14	570	2,454
	86 麻しん	-	-	22	267
	87 薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	2	23